

## 小学生の部 入選

飛騨市立古川小学校 六年 岡田 匠生

一年生の春、泣いて帰る僕に、

「強い男になれ。」

と父に言われ見学に行ったのが空手との出会い。僕は、すぐ入部して、上手になればなるほど帯の色が変わっていくのがおもしろくて形を頑張った。

形の試合は五人の審判が一本ずつ持っている旗の数で勝敗が決まる競技で、三対二でも三が勝つ。僕はあと一本があがらず、しばらく三対二で負けている。毎日練習してきた事を思うとくやしなくて泣いてしまう。

二年生の県大会で、形がすごくうまい子に声をかけた。大会や練習会で会うたび、空手や学校の話をし、試合はお互い応援し合い仲良くなっていった。いつかその子と対決できる日を夢みて、形の練習に火がついた。

ある日、空手の先生が努力のコップの話をしてくれた。コップの大きさは人それぞれで努力の分だけ水がたまる。コップの水があふれた時、神様は勝たせてくれる。僕は努力が足りないから勝たせてもらえないのだと思った。

そして、コロナで試合も練習も学校も行けなくなった。形の練習を毎日家でやった。休校明け、道場にいる黒帯の高校生のお兄ちゃんにほめてもらった。すごくうれしかった。しばらくして先生は古川道場形大会をしてくれた。僕は中学生をふくめた中で優勝できた。

コロナで行けなかった段審査に今年も行っても良いと許可が出た。黒帯は僕が欲しかったもの。たくさん練習して一発合格を目指したい。

6年間空手を続けてきて、辛い事、苦しい事もあったけれど、岐阜市に暮らす友人と中学生になっても空手をやろうと約束した。次こそ黒帯を必ず手に入れて友人との未来の試合に備えたい。

空手に費やしてきた時間と共に戦って練習をした仲間は僕の大切な宝物。